

地域社会における観光デザインに関する実践的研究

有馬温泉及び六甲摩耶山上地区を対象として

PRACTICAL STUDIES ON TOURISM DESIGN IN THE REGIONAL SOCIETY Case Studies in Arima Onsen and Rokko Maya area

相澤 孝司 デザイン学部プロダクトデザイン学科 教授
かわい ひろゆき デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
野口 正孝 デザイン学部ファッションデザイン学科 教授
安森 弘昌 先端芸術学部クラフト・美術学科 准教授
曾和 具之 デザイン学部プロダクトデザイン学科 准教授

Takashi AIZAWA Department of Product Design, School of Design, Professor
Hiroyuki KAWAI Department of Visual Design, School of Design, Professor
Masataka NOGUCHI Department of Visual Design, School of Design, Professor
Hiromasa YASUMORI Department of Crafts and Arts, School of Progressive Arts, Associate Professor
Tomoyuki SOWA Department of Product Design, School of Design, Associate Professor

要旨

神戸市は、有馬温泉及び六甲摩耶山上地区など観光地を有する。しかし、近年双方の観光客は減少の傾向にある。本研究では、前出地区の活性化を目的に本学学生と共に実践的なデザインを行った。また、別府温泉「混浴温泉世界」、九州地区の温泉観光地として、「由布院温泉」及び「黒川温泉」の調査を行った。

研究の結果、地域社会との連携方法として、地元の観光地におけるデザインの実践が展開でき、学生たちと共同で行えることが分かった。さらに調査からも観光地におけるアート&デザインによる活性化を目的とした実践の場があると考えられる。

Summary

Kobe city has sightseeing spot such as Arima Onsen and Rokko Maya area. However, recently as for both tourists tend to decrease. In this studies, practical design made with the students for the purpose of activation in both sightseeing spots. In addition, we investigated the Beppu Onsen "Mixed Bathing World", and "Yufuin Onsen" and "Kurokawa Onsen" in the Kyushu District.

The result of research, as collaboration method of community, be able to develop the practice of the design in sightseeing spot of local, it was joint with the students and it understood that it can do. Furthermore, we thought that there are place of the practice which designates the activation with Art & Design in sightseeing spots.

1-はじめに

本学の所在地神戸市は、六甲山系に有馬温泉及び六甲摩耶山上地区など瀬戸内海国立公園にまたがる自然環境豊かな観光地を有する。しかし、近年双方の観光地は、阪神淡路大震災による影響及び多様化したレジャーなどにより、観光客は減少の傾向にある。本研究では、前出地区の観光資源を有効的に活用するためデザインの視点からアプローチし、本学学生と共に観光のデザインとして、実践的なデザインを行った。また、温泉観光地と連携したデザイン及びアートプロジェクトによる活性化の事例として、大分県別府温泉「混浴温泉世界」、九州地区の温泉観光地の活性化の成功事例として、「由布院温泉」及び「黒川温泉」に向き、調査を行った。

研究の結果、本学と地域社会との連携方法として、地元の観光地におけるデザインの実践が展開でき、学生たちと共同で行えることが分かった。さらに調査からも観光地におけるアート&デザインによる活性化の実践の場があると考えられる。

2-観光デザインの実践

2-1 有馬温泉

有馬温泉におけるデザインの実践事例として、社団法人有馬温泉観光協会主催による地域活性化イベント「有馬温泉ゆけむり大学」^{注1}が、2010年8月31日～9月13日の期間開催され、観光地イベントにおけるデザインの実践を行った。

ビジュアルデザインの実践では、前出大学の校章、学生証、缶バッジ、チラシ、ポスターをビジュアルデザイン学科の学生たちが担当した。（図1）、（図2）

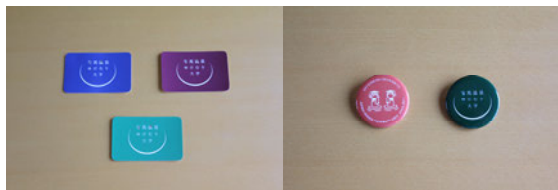


図1 有馬温泉ゆけむり大学「学生証」・「缶バッジ」



図2 有馬温泉ゆけむり大学「校章」・「チラシ」
開学式 演台前「ポスター」

ファッションデザインの実践では、前出大学の制服としてTシャツを採用し、ファッションデザイン学科学生たちが、デザイン及び本学のスタジオにてプリント作業を行った。（図3）



図3 有馬温泉ゆけむり大学「Tシャツ」

作品展示販売の実践では、クラフト・美術の学生たちの

作品を2010年8月30日～9月5日、有馬温泉地区の会場にて、展示販売した。

その他の本学関連のイベントとして、アートパフォーマンス「おもてなし隊」は、かわいひろゆき教授を中心にビジュアルデザイン学科学生たちが、2010年9月4日及び9月10日有馬温泉界限各所において、有馬温泉を訪れた観光客に対して、ユニークなアートパフォーマンスを披露した。

キャンドルイベント「ねがいの灯り LOVE&PEACE」は、2010年9月4日と9月11日の夜間に、ねがいの広場において本学学生及び教員と近畿大学学生たちによって行われ、特に温泉禅寺前は、幽玄な雰囲気に包まれた。

(図4)



図4 有馬温泉ゆけむり大学「ねがいの灯り LOVE&PEACE」

2-2 六甲山摩耶山上地区

六甲山摩耶山上地区におけるデザインの実践事例は、「マッチで灯すキャンドルナイト」を2010年12月23日、六甲ケーブル六甲山上駅構内にて行った。このイベントでは、ケーブル搭乗者が券売所にて配布されたマッチを使用して、おのおのキャンドルに火を灯し構内に配置した。なお、キャンドルの灯数は、会場の標高747mと同数とした。並行して、会場に隣接しているヒルトップギャラリーでは、「マッチラベル展」とクリスマスコンサートも開催し来場客を楽しませた。

(図5)

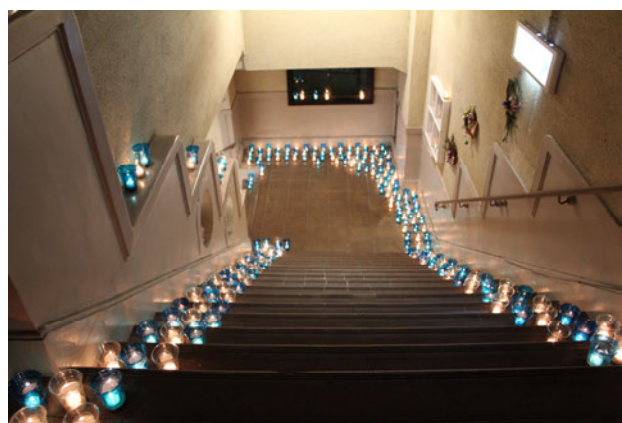


図5 「マッチで灯すキャンドルナイト」

3-調査

本研究では、デザインの実践の他に温泉観光地と大学、研究室などが連携したデザイン及びアートプロジェクトの事例として、大分県別府温泉「混浴温泉世界」、九州地区の温泉観光地の活性化の成功事例とし、「由布院温泉」及び「黒川温泉」に出向き、現場及び聞き取り調査を行った。

別府市では、2005年からNPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事山出純也氏を中心とした市民主導型アートフェスティバルが開催され、街中の活性化を進めている。2008年には、中心地市街地活性化基本計画の認定を受け、2009年4月～6月別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」が開催され、温泉観光地の活性化を目的としたアートプロジェクトとして全国的に認知された。これら一連の経緯及び BEPPU PROJECT の活動に関するレクチャーを受けた。その後、別府市内に点在する、空き店舗を改装して様々な交流の場として利用できるスペースである「platform」及びアーティスト・イン・レジデンスの拠点となった「清島アパート」の見学を行った。

(図6)、(図7)



図6 混浴温泉世界 「platform 01」



図7 混浴温泉世界 「清島アパート」

「由布院温泉」及び「黒川温泉」の調査では、双方の温泉地も活性化、観光客獲得のアイデアを地元住民主導で独自に展開し、継続した結果が全国的に知名度の高い温泉観光地となった経緯であることが確認出来た。

4-おわりに

有馬温泉及び六甲摩耶山上地区の観光資源を有効的に活用するためデザインの視点からアプローチし、本学学生と実践的なデザインを行った。有馬温泉では「有馬温泉ゆけむり大学」を立ち上げ、本イベントに関するデザインの実践を学生と共同で行えるステージがあることが確認できた。さらに他大学と交流できる機会もあり様々な教育効果があったと思われる。

六甲摩耶山上地区では、「マッチで灯すキャンドルナイト」を六甲ケーブル六甲山上駅構内にて行い、さらにヒルトップギャラリーなど同地区のクリスマス関連イベント

にもリンクでき効果的であった。

街中の活性化を進めるアートプロジェクトの事例として、別府温泉「混浴温泉世界」、さらに知名度の高い九州地区の温泉として「由布院温泉」及び「黒川温泉」を調査した。いずれの温泉地も活性化のため地元住民主導で独自に展開し、継続したことが共通のキーワードである。特に別府温泉「混浴温泉世界」は、「温泉観光地」、「中心地市街地活性化」、「アートプロジェクト」が三位一体となっており、非常に興味ある内容と完成度の高いイベントとして今後の展開が期待される。

本研究により、本学と地域社会との連携方法として、地元の観光地におけるデザインの実践が可能であり、また学生たちと共同で行えることが分かった。さらに調査からも観光地におけるアート&デザインによる活性化を目的とした実践の場があると考えられる。すなわち、2011年度において有馬温泉では、「有馬温泉ゆけむり大学」を活性化イベントとして年間を通じて展開する予定である。六甲摩耶山上地区においては、受託研究として、「六甲山サイン未来展」を2011年3月に開催した。六甲ミーツ・アート芸術散歩2011では、「神戸芸術工科大学 ROKKOSAN PROJECT」の名称で学生と共同制作による作品を六甲ケーブル中間駅に展示する予定など、それぞれの地区において、継続的にデザインの実践を展開していく計画である。

研究分担者

相良二郎 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
 佐野浩三 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
 林口哲也 元・デザイン学部プロダクトデザイン学科
 助手

注1「有馬温泉ゆけむり大学」有馬温泉には、さまざまな観光資源があり、音楽：大阪音楽大学、武庫川女子大学、デザイン：神戸芸術工科大学、スポーツ：武庫川女子大学、企画：近畿大学によって講義とカリキュラムが計画され、2010年夏から開始した活性化イベントである。

参考文献

NPO 法人 BEPPU PROJECT、『混浴温泉世界 場所とアートの魔術性』、河出書房新社、2010